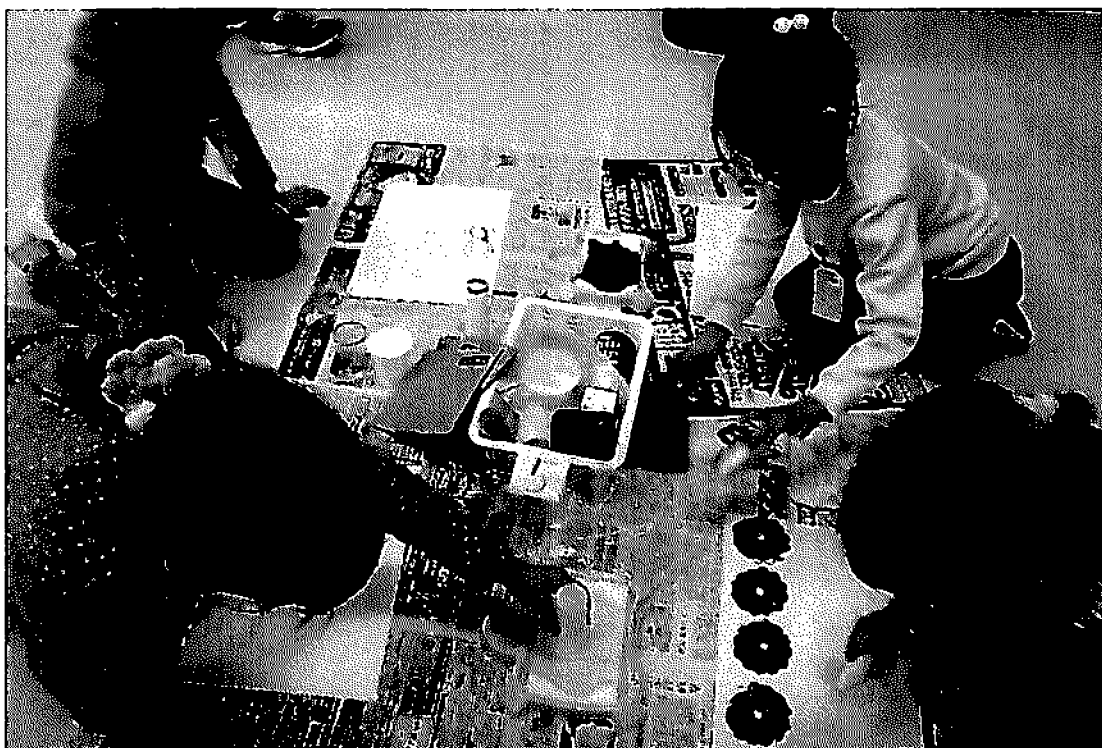


自分の思いを広げ、進んで表現しようとする児童の育成

～ 一人一人の感性を大切にした造形活動を通して ～



平成29年8月23日(水)

佐倉市立下志津小学校

池内 美知子

## 1 研究主題

自分の思いを広げ、進んで表現しようとする児童の育成  
～一人一人の感性を大切にしたい造形活動を通して～

## 2 主題設定の理由

### (1) 学習指導要領から

小学校学習指導要領 図画工作科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」である。その達成には、児童本来に備わっている資質や能力を一層伸ばし、児童が自ら作り出す喜びを味わうようにする観点が必要になる。

また、目標の中に示された「感性を働かせながら」は、現行の学習指導要領改訂の際に、新たに加えられた文言である。「感性」は、様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに、知性と一体化して創造性を育む重要なものとされている。表現及び鑑賞活動において、児童は視覚や触覚など、様々な感覚を働かせながら、自らの能動的な行為を通して、形や色、イメージなどをとらえている。これを手掛かりに、自他や社会と交流し、主体的に表現したり、よさや美しさなどを感じ取ったりしているのである。「感性を働かせながら」とは、このような感覚や感じ方、表現の思いなど、自分の感性を十分に働かせることを示している。このことを実現させるために、一人一人の感性を大切にすることが必要であると考えた。

### (2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は『明日のために 今を精一杯生きる子どもの育成 レッツ チャレンジ 下志津っ子』である。これは、学習指導要領の基本的なねらいとなる『生きる力』を育むことと重なる。

「今を精一杯生きる子ども」は、受け身な学習姿勢ではなく、自ら課題を見出したり、課題に対して自ら関わったりすることにより育成されていくと考える。学ぶ姿勢として「児童一人一人の学習意欲を高め、自ら学ぶ学習態度を育成する学習指導の改善・研究」を学校経営の重点として打ち出している。学習活動を通して、児童が自分の思いを伝え、友達の思いを知り、そこから思いを深めたり、新しい自分の意見が生まれたりする授業を行うことが、児童が自ら学ぶ学習態度の育成となり、さらに今を精一杯生きる子どもの育成につながると考えた。

### (3) 児童の実態から

本校の児童は、学校教育への関心が高く協力的な家庭や地域に支えられた、恵まれた環境の中で、素直に育っており、与えられた課題は最後までやり遂げることができる。しかし、自分から進んで課題を見つけたり、課題解決へ向けて自分の考えを表現したり、よりよい解決方法を見出したりすることを苦手とする傾向がある。進んで表現し、自信をもって活動できるようになることが課題の一つとなっている。

また、図画工作科の授業を楽しみにしている児童が多く、表現することを楽しいと感じていたり、想像することのおもしろさを感じていたりしている。しかし、なかなか自分の思ったことを表現できない児童や、思い浮かばないと手が止まってしまう児童もいる。さらに、友達の作品に関心をもっている児童が多く、友達の作品のよさを見つけることは9割近くの児童ができていますと感

じているが、それを伝えることについてはできていないと考えている児童もいる。

これらのことから、意図的に関わり合う場の設定をすることで、よさを伝え合い、自信をもって活動し、進んで表現することができるようになるのではないかと考えた。子ども達の感性を大切に、思いを引き出せるような活動をさせていく必要があると考え、本主題を設定した。

### 3 研究の目標

図画工作科において、児童同士が交流し認め合う活動を通して、感性を磨き、表現力を高める指導法を明らかにする。

### 4 目指す児童像

豊かに自分の思いを広げられる子  
自分が考えたことを進んで表現できる子

上記の目指す児童像を踏まえ、より具体的な目指す児童の姿を発達段階に応じて以下に示す。

#### <目指す児童の姿>

	豊かに思いを広げるために
低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分達の作品や身近な材料などを楽しく見ることができる。</li> <li>○感じたことを話したり、聞いたりすることで、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気づくことができる。</li> </ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分達の作品や身近な美術品や作製の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ることができる。</li> <li>○感じたことや思ったことを話し合うなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどがわかることができる。</li> </ul>
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分達の作品、我が国や諸外国の親しみある美術品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取ることができる。</li> <li>○感じたことや思ったことを話し合うなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえることができる。</li> </ul>

	進んで表現するために
低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感覚や気持ちを生かしながら楽しくつくることができる。</li> <li>○好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すことができる。</li> </ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい形をつくるとともに、その形から発想したり、話し合ったりしながらつくることができる。</li> <li>○表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すことができる。</li> </ul>

高 学 年	<p>○材料や場所などに進んで関わり合い、それらを基に構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながらつくることができる。</p> <p>○形や色，材料の特徴や構成の美しさなどの感じ，用途などを考えながら，表し方を構想して表すことができる。</p>
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<評価規準について>

目指す児童像へ迫っているかを知るためにも評価を欠くことはできない。しかし，図画工作科における評価の課題として，指導者の主観が影響しやすいことが挙げられる。そこで本校では，国立教育政策研究所が定めている「評価規準の設定例」を参考に各題材で評価規準を設定した。

以下に各学年における評価の観点の趣旨を示す。

○第1学年及び第2学年の評価の観点の趣旨

造形への 関心・意欲・態度	発想や創造の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
思いのままに表現したり，作品などを見たりしながら，つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり，形や色，つくり方などを考えたりしている。	体全体の感覚を働かせながら材料や用具を使い，工夫して表している。	身の回りの作品などの形や色から，面白さに気付いたり，楽しさを感じたりしている。

○第3年及び第4年の評価の観点の趣旨

造形への 関心・意欲・態度	発想や創造の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分の思いで表現したり，鑑賞したりしながら，つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや見たこと，材料や場所などを基に表したいことを思い付いたり，形や色，用途などを考えたりしている。	手や体全体の感覚を働かせながら，表したいことに合わせて材料や用具を使い，表し方を工夫している。	身近にある作品などの形や色から，表現の感じの違いをとらえたり，よさや面白さを感じ取ったりしている。

○第5年及び第6年の評価の観点の趣旨

造形への 関心・意欲・態度	発想や創造の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分の思いをもって表現したり，鑑賞したりしながら，つくりだす喜びを味わおうとする。	感じたことや見たこと，材料や場所などの特徴を基に表したいことを思い付いたり，形や色，用途や構成などを考えたりしている。	感覚を働かせたり経験を生かしたりしながら，表したいことに合わせて材料や用具を使い，様々な表し方を工夫している。	親しみある作品などの形や色から，表現の意図や特徴をとらえたり，よさや美しさを感じ取ったりしている。

## 5 研究の仮説

学習活動の中で自分や友達によさに気づくような工夫を行っていけば、一人一人の感性が磨かれ、表現力が豊かになるだろう。

## 6 研究の手立て

自分や友達によさに気づくような工夫を行うために、以下のような手立てを行った。

<b>【手立て1】自分や友達によさに気づくような場面設定</b>
○鑑賞の機能を生かす ○発想や構想を行う時間の確保 ○手がかりとなる視点や方法の提示
<b>【手立て2】学習用具・環境の工夫</b>
○共有する学習用具の準備 ○コミュニケーションの場づくり
<b>【手立て3】教師による言葉かけ</b>
○肯定的な言葉かけ ○コミュニケーションの活性化

## 7 研究の実際

### (1) 各学年の実践と具体的な手立て

#### 1年生「チョッキンパでかざろう」

##### 【手立て1】作品づくりの途中で鑑賞の機能を生かす

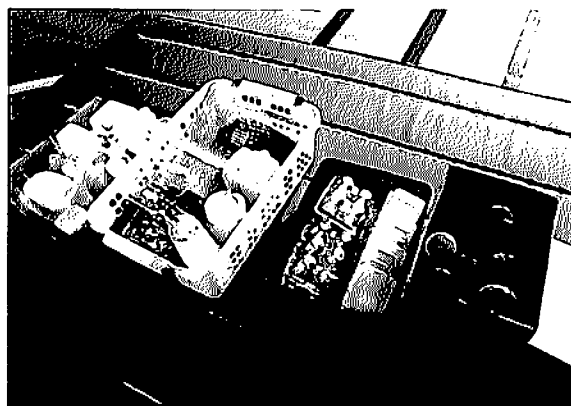
机を班にして、友達の作成する様子や作品を自由に見ることができるようにした。出来上がった作品は、他の児童のヒントとなるよう、クリアファイルで展示した。「ほめほめタイム」では、友達の作品を見ながら「いいな」と思ったところを、自分なりの言葉で伝えさせた。



#### 2年生「コロコロ大きくせん」

##### 【手立て2】共同で材料や用具を扱う

1ヶ月前から家庭に呼びかけ材料を集めた。「みんなのコーナー」を設け様々な材料を自由に使えるようにした。この題材で大切なことは、コロコロエンジンの不思議な動きをたくさん発見することである。グループごと長机を使った「おためしコーナー」で様々な材料を試すことができた。



3年生 「ひみつのへんしんショー」

【手立て3】 肯定的な言葉かけ

児童同士の「いいねタイム」の他に、教師側からの「いいねタイム」を設定し、児童に表現のよいところなどをより具体的に伝えた。また、グループの話し合いの中に教師も参加し、児童の気づきを発言に促すなどコミュニケーションの活性化を図った。

へんしん ショー

まてかさねて大へんしん させよう~



4年生 「いい場所見つけて囲んでみよう」

【手立て2】 コミュニケーションの場づくり

自由に話し合い、学び合いながら発想が広がるような場を設定した。教室に様々な方向からロープを張り、広い空間が利用できるようにした。家庭に協力してもらって集めた、様々な材質の紙袋で、グループごとに「特別な場所をつくろう」というテーマで自由に場所を囲んだ。



5年生 「かくれんぼさんをさがせ」

【手立て3】 コミュニケーションの活性化

鑑賞メモとして付箋紙を利用し、相手に伝えることができるようにした。このとき、「①友達の作品にどんな工夫やおもしろさがあるか。②自分だったらどんな工夫をするか。」の二つを鑑賞のポイントとして意識させながら活動に取り組ませた。



6年生 「墨のうた」

【手立て1】 手がかりとなる視点や方法を提示

体育館の広いスペースで自由に作品づくりに取り組んだ。ヒントとなるよう、前時に取り組んだ、墨の濃淡を変えたり、いろいろな筆を使ったりした、試しの作品と、そこからイメージされる言葉を、壁に掲示した。仕上がった作品を並べるための「レッドカーペット」を体育館の中心に長く広げ、いつでも鑑賞できるようにした。



(2) 実践事例

- ① 題材名 カードで味わう形・色
- ② 対象 4年生
- ③ 内容 はがきサイズ程度の画用紙に色紙や色画用紙を切ったものを模様として貼り付け、形や色を楽しみながらイメージカードをつくる。
- ④ 仮説との関わり

【手立て1】自分や友達によさに気づくような場面設定

導入で、ペアやグループで、お互いがイメージしたことや表現したことを話し合させた。このときに、なぜイメージしたのかという根拠を話させることで、友達との共通点や、イメージの違いのおもしろさに気付かせた。また、イメージカードを作成するときにも、机を班の形にして、お互いに作品を見合える環境にし、友達の表現に関心をもたせることで感性が磨き合えるようにした。

【手立て2】学習用具・環境の工夫

材料や用具の一部をグループで共通で使用させ、使い方の工夫や組み合わせのおもしろさなどが共有できるようにした。

同じ色でも、紙の厚さやさわり心地など材質のちがうものを用意し、様々なイメージが浮かぶように工夫した。

【手立て3】教師による言葉かけ

導入では、数名の児童から話を聞き、お互いのイメージが違うことや、また、それが正しいことを話し、児童が心を開いて活動できるようにした。

イメージカードを作成している途中で、別のイメージに変わるようなときも、それを認め、感じ方が変化していくことも楽しめるように声をかけた。

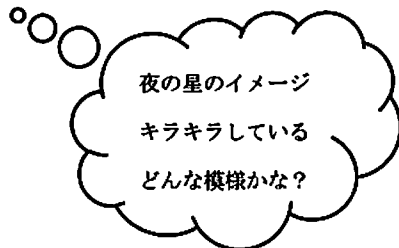
④ 本時の展開

時配	学習内容と児童の反応	指導・支援 ○評価
8	<p>1 形や色からイメージできる言葉、または音からイメージできる形や色について話し合う。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">ピンク色</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-right: 10px;">                     優しい感じ 春っぽい 幸せそう                 </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">どんな感じ? </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-right: 10px;">                     痛い感じ 驚いた感じ 爆発                 </div> </div>	<p>・形や色に対して、どのようなイメージをもっているのか、具体的なものをイメージさせてふり返らせた。</p>

- ・楽器の音を聞く。
- ・音を形や模様でイメージし、ワークシートに描く。

ウッドブロック    ギロ

ウインドチャイム



- ・ペアでワークシートを見せ合い、交流。

- ・友達の模様は、すごくおもしろい。
- ・音を描いてみると色も形も人によって違う。
- ・友達と似ていた。

- 2    2    計画表を見て学習内容を確認し、本時の活動を知る。

色や形を組み合わせてイメージカードをつくろう

25

- ・活動の仕方を確認する。
  - ・カードは次時のカルタ取りに使うことを知る。
- 3    イメージカードをつくる。
- ・できた模様から言葉カードをつくる。
  - ・言葉カードから模様を考える。
- 友達に相談したり、アドバイスをしたりしながら活動を行う。



材料を共通で使う様子

- ・目をつぶらせて楽器の音を聞かせて、形や色をイメージさせた。
- ・絵ではなく、模様で描くよう声をかけた。
- ・机を班の形にして、お互いの作品がいつでも見合える環境にした。【手立て1】
- ・ペアやグループでお互いがイメージしたことを根拠をもたせて話し合わせた。【手立て1】

- ・話し合いの場で児童同士のイメージが違うことや、イメージに違いがあっても良いことを理解させるような言葉かけをした。【手立て3】
- 形や色で表すことを楽しむとともに、友達の表現にも関心をもっている。

(関) [発言・ワークシート]

- ・材料や用具をグループで共通で使用させ、使い方の工夫や組み合わせの面白さを共有できるようにした。【手立て2】
- ・同じ色でも、紙の厚さやさわり心地など材質の違う物を用意し、様々なイメージが浮かぶようにした。

<児童の準備>

- ・色鉛筆
- ・はさみ

<教師の準備>

- ・色紙(百色色紙・カラーホイル色紙)
- ・色画用紙
- ・おはな紙
- ・カラーペン
- ・スティックのり





完成した児童の作品

・イメージを表す言葉の例を提示し、活動や交流が滞らないようにした。

わいい感じ	ふんわりした感じ	ふわふわ感じ	ぽかぽか
きもちがいい感じ	さみしい感じ	身だしなみ	静かな感じ
付け心地がいい	暗い感じ	さえずり	ねむい
くいなく感じ	にぎやかな感じ	運動する感じ	さわやかな
さらさら感じ	べたべた感じ	和風な感じ	机張面
たじろび	こわい感じ	しーんとした感じ	スルッとした
くさくさい	おどろき	おどろき	おどろき
くさくさい	くさくさい	くさくさい	くさくさい

言葉の例

5

4 本時の活動をふり返る。

・感想を伝え合う。

- ・友達のカードを見て、自分と違っておもしろかった。
- ・同じ言葉カードだけど友達は違う模様ができていた。

○言葉をもとに形や色の組み合わせを考え、いろいろと試しながら発想を広げて表すことができる。(発) [観察・作品]  
 ・作品の制作中に、イメージが変化することを認め、感じ方が変化していくことも楽しめるように声をかけた。

【手立て3】

・つくってみて思ったこと、友達の作品を見て思ったことが言えるように声かけをした。

【手立て3】

○自分の感じ方を言葉にしたり、友達の見方、感じ方の違いやよさを味わったりすることができる。(鑑) [発言・観察]

5

5 片づけを行う。

#### ④ 分析と考察

【手立て1】ペアやグループでの話し合いでは、友達との共通点やイメージの違いの面白さに気づき、それを伝え合うことができた。

【手立て2】学習用具や材料を共通で使ったことで、友達の作品を見る機会が増えた。友達のアイデアを取り入れたり、自分のひらめきを伝えたりする様子が見られた。

【手立て3】イメージカードを作成する途中で、新しいひらめきで別のイメージに変わることも肯定した。感じ方の変化を楽しむことができた。

友達の作品に対して、自分のイメージとの違いを肯定して伝えることができた。

友達の作品を見て「おもしろい」や「なるほど」などのつぶやきが聞かれ、感じ方の違いを実感できていると感じられた。鑑賞し合うなかで、自由に表現してよいことがわかり、心を開いて思い思いのカードを作成することができた。進んで表現しようとする姿が見られた。

## 8 研究の考察

### 【手立て1に関わる内容の考察】

児童は、作品をつくりながら、試行錯誤し自分なりの作品を完成させていく。その中でペアやグループの活動など友達と関わる場面を意図的につくったため、友達の作品にも関心をもつことができた。各学年で「ほめほめタイム」や「いいねタイム」「みてみてタイム」など鑑賞する時間を設定して交流を促し、よさを伝えることに重点を置いた。作品づくりの途中でこの時間を設けたことで、友達のアイデアを取り入れるなど、その後の作品づくりに影響し合った。

単元の2時間目以降の授業では、前時の作品を見る機会を導入に取り入れ、手がかりとなる視点や方法を話し合った。作品のよいところを全体で認め合うことで「もっと、こうしたい」という意欲をもったり、自分の作品のよさに気づき自信をもてたりした児童が多くみられた。

### 【手立て2に関わる内容の考察】

材料、用具など、教師側が用意し、友達と共通のものとして扱わせる工夫を行った。自然と見合ったり、アドバイスをし合ったりすることが増えていった。

個人の作品を作成するときは、共有の用具や材料について様々な種類を集め用意した。このことで、道具を貸し借りしながら作品について話したり、材料の使い方のひらめきを伝えたりすることが見られた。表現力の磨き合いが行われていたと考える。

グループで一つの作品をつくるときは、対話をしながら作品が生まれ、完成されていく。その中で、友達のアイデアを賞賛する言葉が次々と聞かれるようになった。自分のものを取り入れてもらえる喜びを感じることもできたと考える。このような活動の中で、進んで表現しようという思いが育まれていったと思われる。

### 【手立て3に関わる内容の考察】

どの児童も自分の作品には思いがある。その思いを教師が見つけた肯定的な言葉かけを行った。教師側は児童に「どうしてそのように表現したのか」、作品づくりの過程で聞き、その思いを拾い上げて「〇〇のようにしたいから△△にした工夫がいいね」など、具体的にほめるようにした。さらに、それを全体場で紹介することで、友達の作品への気づきが増えていった。「ほめほめタイム」の言葉も、「うまいね」などの技術的な面に対する言葉から、具体的な言葉に変化してきたと感じている。このことから、作品への関心が高まり、作品の見方も変化していき、感性が磨かれていったと考える。

### 【実態調査の結果とその考察】

資料編

## 9 成果と課題

### (1) 仮説について

27年度では、自分や友達のよさに気づくような工夫をすると、友達のよいところを取り入れるなど作品づくりに影響し合うことがわかった。しかし、作品づくりの、始めの段階で、「すぐに発想がうかばない」できたとしても「それを表現できない」という、一部の児童らの悩みもあった。このことから、28年度は、導入の工夫をしていくことも、研究の取り組みとした。特に、教師らの作成例の提示は、教科書を見るよりも材料の扱い方がわかるなど有効であったと考える。さらに、児童のつ

くりたいという意欲を向上させる効果もあった。反面、低学年の児童の中には、作品例に近づこうとする思いと、そうでなかった現実が、本人の作品の評価を下げてしまうことも見られた。教師の適切な助言で改善していく必要がある。

自分や友達によさに気づく活動として、意図的に関わり合う場を多くもつことに重点を置いて実践を行ってきた。一人では気づけなかったことや解決できなかったことも、よりよい方法を見つけられるようになった。お互いの表現から学び、感性の磨き合いが行われたと思われる。「よさをまねる」ことを肯定化してきたが、作品については、それぞれ個性のある作品が仕上がるようになってきている。これは、表現力の豊かさが伸びている結果である。

## (2) 教師の意識の変容について (成果)

具体的な手立てを考え実践するなかで、教師の図画工作科の授業への意識にも、以下のような変容が見られる。

- ・教材研究をし、材料や手順の工夫をして作品例をつくることで、高い意識をもって授業にのぞむことができるようになった。
- ・授業について、試行錯誤ができるようになった。
- ・「自分の思いを広げ、進んで表現する」ことを実現させるために、「どんなことをしたら楽しいか」と考え、教師も授業が楽しくなった。
- ・一人一人の感性を大切にすることは、個性を大切にし、一人一人の思いを知るよい機会になり、学級経営にも影響している。

2年間の研究により、実態調査で見られる変化や児童の活動の様子を見ても、主題に迫ることができていると考える。しかし、課題として「自分の作品が好きではない」「自分のアイデアを作品にすることができない」と考える児童が数名いることも事実である。29年度は、そのように考える児童を追い、どのような教師の発問や声かけが有効なのか、どのような活動の工夫が必要なのかに視点を置き研究を進めている。

### <参考文献>

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 図画工作編』 日本文教出版株式会社 平成20年8月
- ・評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 【小学校図画工作】

文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター

# 資料編

- |     |                 |          |
|-----|-----------------|----------|
| 資料1 | 検証授業を行った題材      | P 1      |
| 資料2 | 実践記録            | P 2~P 4  |
| 資料3 | 27年度 実態調査の結果と考察 | P 5~P 8  |
| 資料4 | 28年度 実態調査の結果と考察 | P 9~P 13 |
| 資料5 | 児童の思い(6年生)      |          |

## 27年度

第1回授業研修会	
3年2組	「長〜い紙 つくって」
第2回授業研修会	
1年1組	「チョッキン パツで かざろう」
2年1組	「ゆらゆら ウキウキ」
6年1組	「創造力で楽しむ鑑賞」
第3回授業研修会	
ひまわり・たんぼぼ学級	「きって、はって、すてきなスタンドグラスをつくろう」
第4回授業研修会	
2年2組	「きって、ひねって、つなげると」
3年1組	「にぎって、ひねって、ひらめいて」
5年1組	「でこぼこ広場に絵の具が走る」
第5回授業研修会	
1年2組	「うつしてあそぼう」
4年1組	「カードで味わう、形・色」
6年2組	「写して見つけたわたしの世界」

## 28年度

第1回授業研修会	
2年2組	「つづきえ どんどん」
5年1組	「かくれんぼさん」をさがせ」
第2回授業研修会	
1年2組	「チョッキン パツで かざろう」
5年2組	「ゆらゆら ウキウキ」
第3回授業研修会	
ひまわり・たんぼぼ学級	「たいせつな人に絵手紙をかこう」
第4回授業研修会	
1年1組	「どうぶつむらのピクニック」
2年1組	「コロコロ大さくせん」
4年1組	「いい場所見つけて、囲んでみよう」
第5回授業研修会	
3年1組	「ひみつのへんしんショー」
4年2組	「願いの種から」
6年1組	「墨のうた」

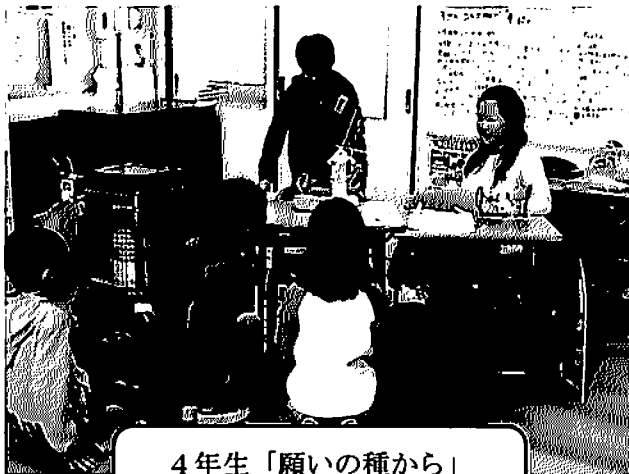
自分や友達によさに気づくような場面設定【手立て1】



1年生「チョッキン パッ でかざろう」  
ほめほめタイム



2年生「きって ひねって つなげると」  
おしゃべりタイム・ありがとうカード



4年生「願いの種から」  
お店屋さん方式



ひまわり・たんぼぼ学級  
「絵手紙をかこう」  
タブレットの活用

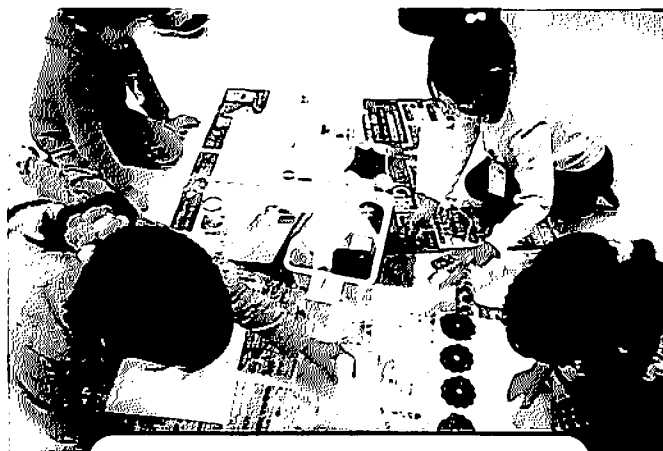


5年生「かくれんぼさんをさがせ」  
付箋の活用

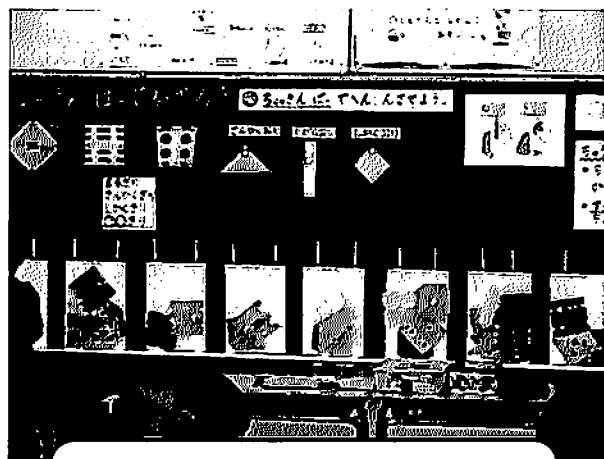


6年生「墨のうた」  
いつでも鑑賞

学習用具の工夫【手立て2】



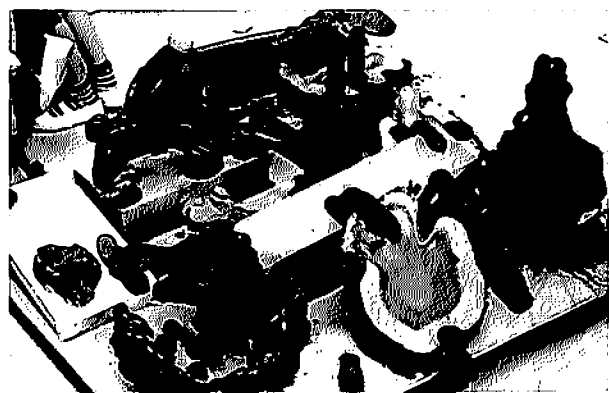
1年生「うっしてあそぼう」  
共通で使う絵の具（スタンプ台）



1年生「チョッキンパでかざろう」  
クリアファイルの活用



2年生「ころころ大きくせん」  
みんなのコーナー



3年生「にぎって ひねって ひらめいて」  
友達と作品をつなげる台座



4年生「いい場所見つけて囲んでみよう」  
教室に張ったロープ  
自分で集めた材料



6年生「鑑賞授業」  
一つの絵から

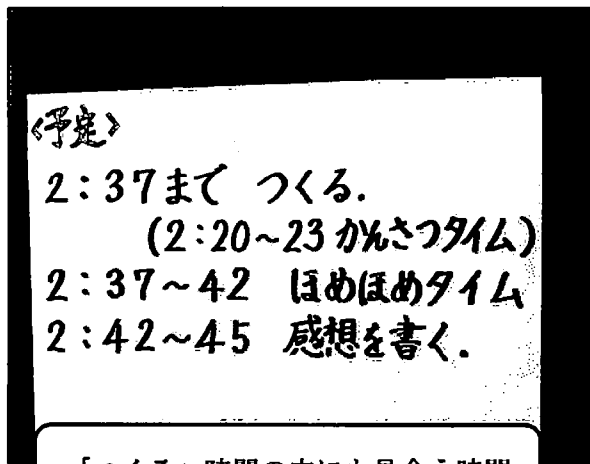
教師による言葉かけ【手立て3】



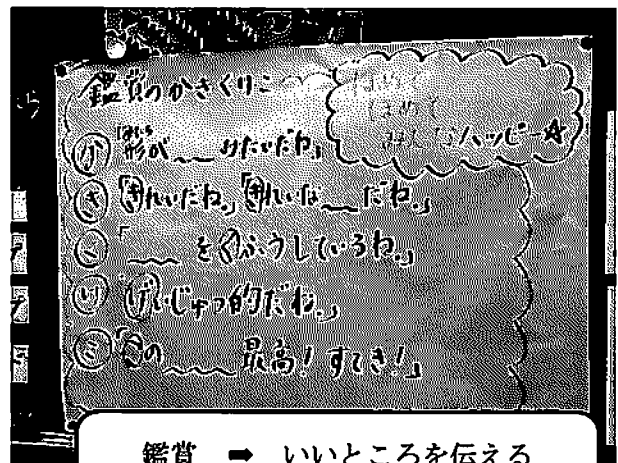
児童の気づきを賞賛



「よさ」を取り上げる



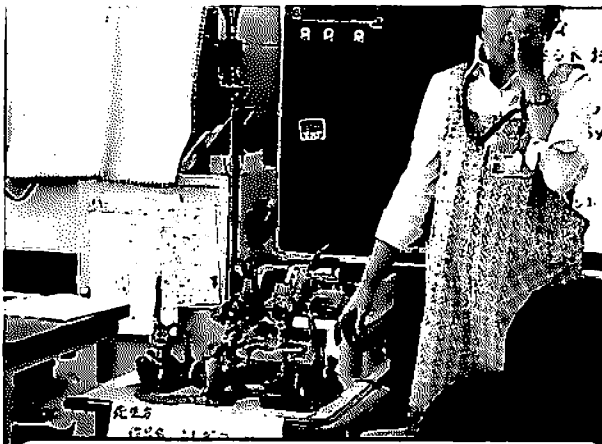
「つくる」時間の中にも見合う時間



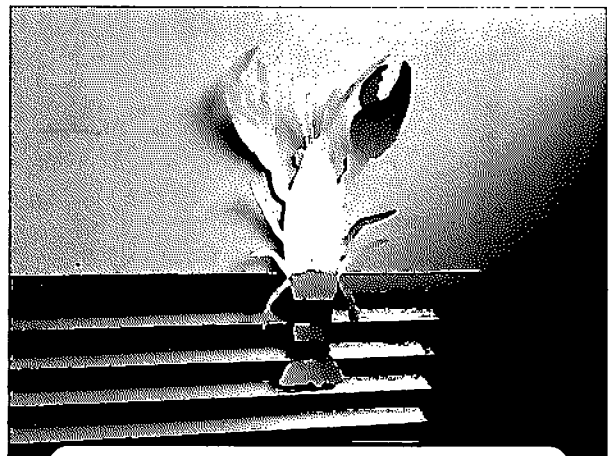
鑑賞 → いいところを伝える  
伝え方を提示 (鑑賞のポイント)

導入の工夫

教師の作品例で興味・関心を高める



3年生  
「にぎって ひねって ひらめいて」



5年生  
「かくれんぼさんをさがせ」



1 実態調査

以下に示す項目について、6月と12月に調査を実施し、児童の変容を見ることと、仮説の検証を行った。ただし、文章表現については、学年に応じた表現方法とした。

質問1 何をつくるかや、つくり方を考えるのは好きですか。

- ア とても好き                      イ 好き  
ウ あまり好きではない              エ 好きではない

質問2 友だちの作品のよさを見つけていますか。

- ア いつも見つけられる              イ 見つけられることが多い  
ウ 見つけられないことが多い      エ 見つけられない

質問3 友だちの作品のよさを見つけ、それを伝えることができますか。

- ア いつも伝えられる              イ 伝えられることが多い  
ウ 伝えられないことが多い      エ 伝えられない

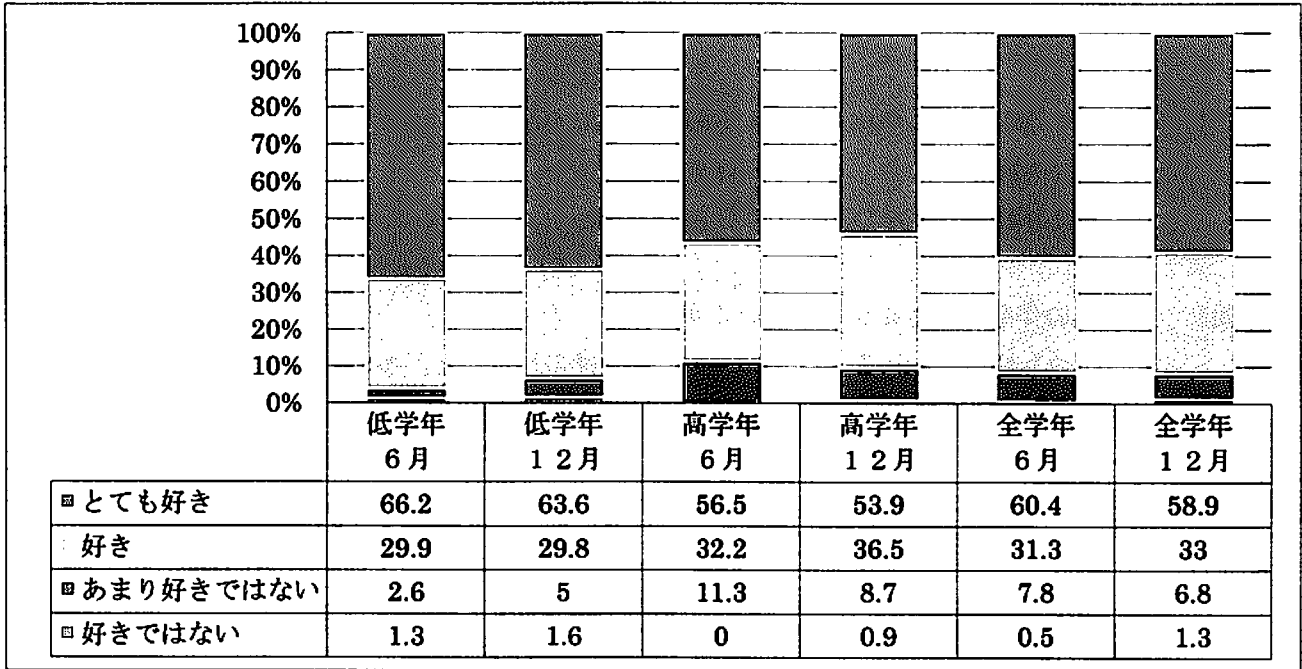
質問4 自分で考えたことを表現できていますか。

- ア いつもできている              イ できていることが多い  
ウ できないことが多い              エ できない

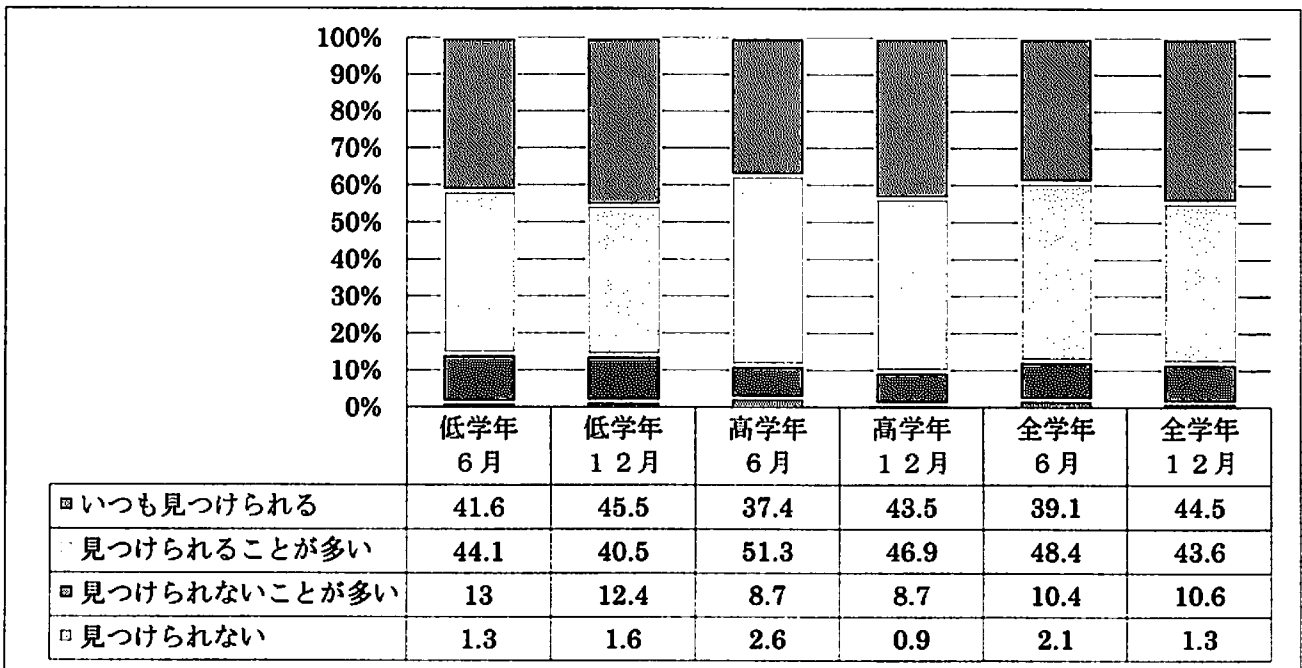
## 2 児童の変容

グラフは調査の結果を百分率で表している。

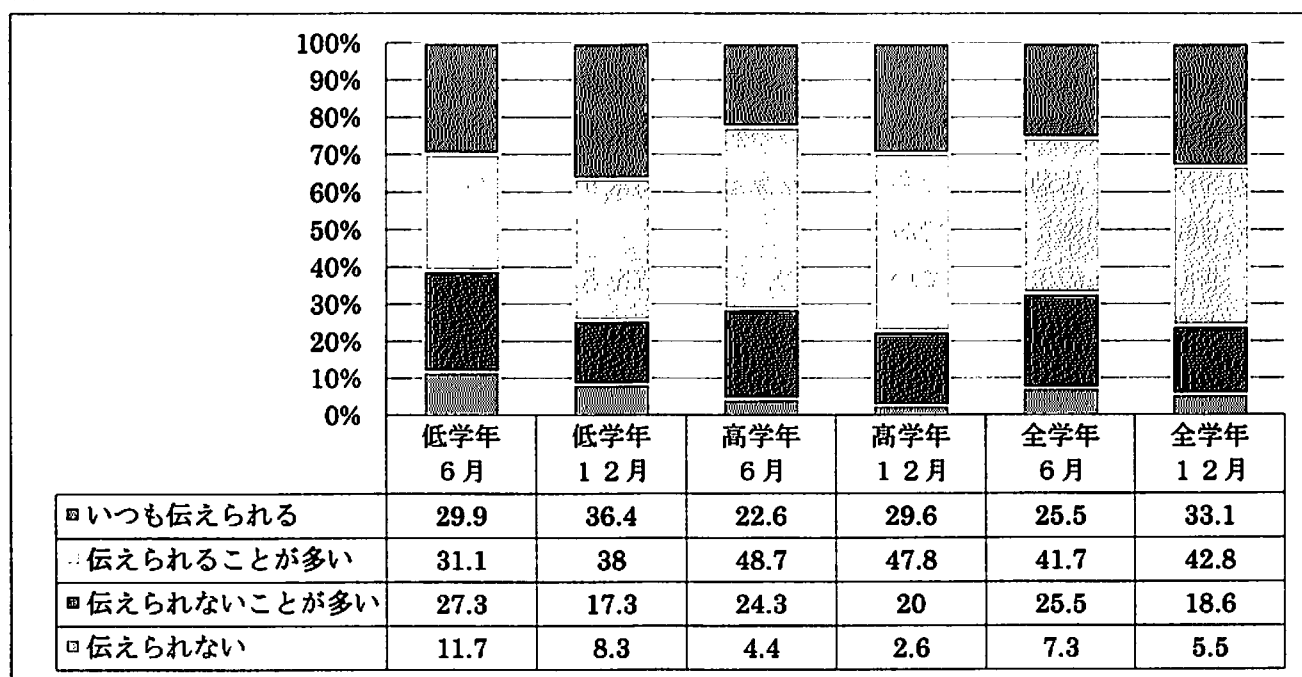
質問1：何をつくるかや、つくり方を考えるのは好きですか。



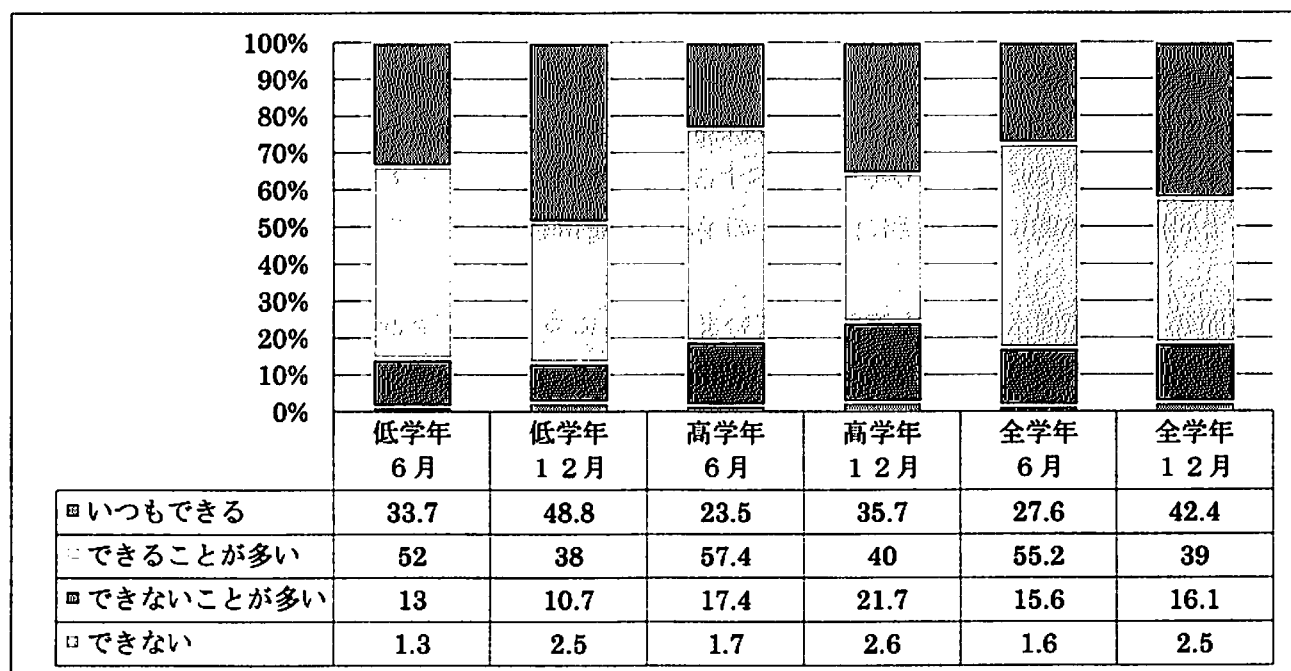
質問2：友だちの作品のよさを見つけていますか。



質問3：友だちの作品のよさを見つけ、それを伝えることができますか。



質問4：自分で考えたことを表現できていますか。



### 3 考察

○質問1「何をつくるかや、つくり方を考えるのは好きですか。」について、全学年でアやイと回答した児童数は約9割で横ばいであった。年間を通して高い数値となっている。この理由として、活動の途中で鑑賞時間を設けたことが挙げられる。児童が終始自分だけの発想で作品づくりに取り組むのではなく、活動中に友だちの作品を見ることにより、どうつくったらさらにおもしろくなるか考える時間を確保した成果である。

さらに導入の工夫をしていくことで、つくり方を考える時間を充実させることが今後の改善策として考えられる。

○質問2「友だちの作品のよさを見つけていますか。」について、全学年でアやイと回答した児童数は約9割で横ばいであった。年間を通して高い数値となっている。この理由として、活動途中で鑑賞の時間を設けたことに加え、学習の最後に充実した鑑賞活動を行ったことが挙げられる。こうした活動を通して見つけた「友だちの作品のよさ」が、次の活動へよい影響を与えることにつながっている。さらに内容を深めるために、具体的な鑑賞の視点を明確に提示する等の工夫が考えられる。視点を絞りすぎてしまうことに陥ってはならないが、よさを見つける手がかりを示したいところである。

○質問3「友だちの作品のよさを見つけ、それを伝えることができますか」について、アと回答した児童数の割合が増加し、ウやエと回答した児童数が減少した。質問2と関連して、児童にとってよさを見つけることは比較的容易な活動であるが、それを相手に伝えるとなると難しい活動となることが6月の調査結果からわかる。その難しく感じる活動についてアと回答した児童数が増加したことは、本研究の成果である。成果につながった例をあげると、「友だちの作品のよさをまねる」ことを肯定的に捉えさせたことである。まねはよくないと思われがちな意識を、指導者の助言で変化をもたらすことにより、「まねをする=あなたのよさ」と相手に伝える機会となったのである。

しかし、他の質問に比べてウやエと回答する人数の割合が高いことも結果として表れている。質問2と同様、具体的にどう相手に伝えるかの手がかりを指導者が示していく必要がある。

○質問4「自分で考えたことを表現できていますか。」について、アと回答する児童数が増加したものの、ウやエと回答する児童数も微増する結果となった。児童が想像したできあがり、現実にできあがったものとの差が大きいためと考えられる。改善策として、教師が作品例を提示することがあげられる。児童が実現できる可能性があるものを具体的に想像できるようになると思われる。また、材料の扱い方や手順についても教師側が理解しておくことで、計画的に学習が進められると思われる。さらに、低学年では、題材に慣れさせる時間を確保する必要もある。例えば、ハサミを使う活動において、作品づくりに入る前に練習用の紙をたくさん切る活動を入れたり、絵を描く活動において、色の混ざり具合や描き具合を試す活動を入れたりすると改善されるのではないかと。単元計画を見直し、導入の工夫を行うことが、改善の糸口である。

## 1 実態調査

以下に示す項目について、5月と12月に調査を実施し、児童の変容を見ることと、仮説の検証を行った。ただし、文章表現については、学年に応じた表現方法とした。

質問1 何をつくるか想像したり、つくり方を考えたりするのは好きですか。

- ア とても好き                      イ 好き  
ウ あまり好きではない              エ 好きではない

質問2 自分のつくった作品は好きですか。

- ア とても好き                      イ 好き  
ウ あまり好きではない              エ 好きではない

質問3 自分のアイデアを作品にしたいと思えますか。

- ア とてもそう思う                      イ そう思う  
ウ あまり思わない                      エ 思わない

質問4 自分のアイデアを作品にすることができていますか。

- ア いつもできている                      イ できていることが多い  
ウ できないことが多い                      エ できない

質問5 友達の作品のよいところを見つけていますか。

- ア いつも見つけられる                      イ 見つけられることが多い  
ウ 見つけられないことが多い              エ 見つけられない

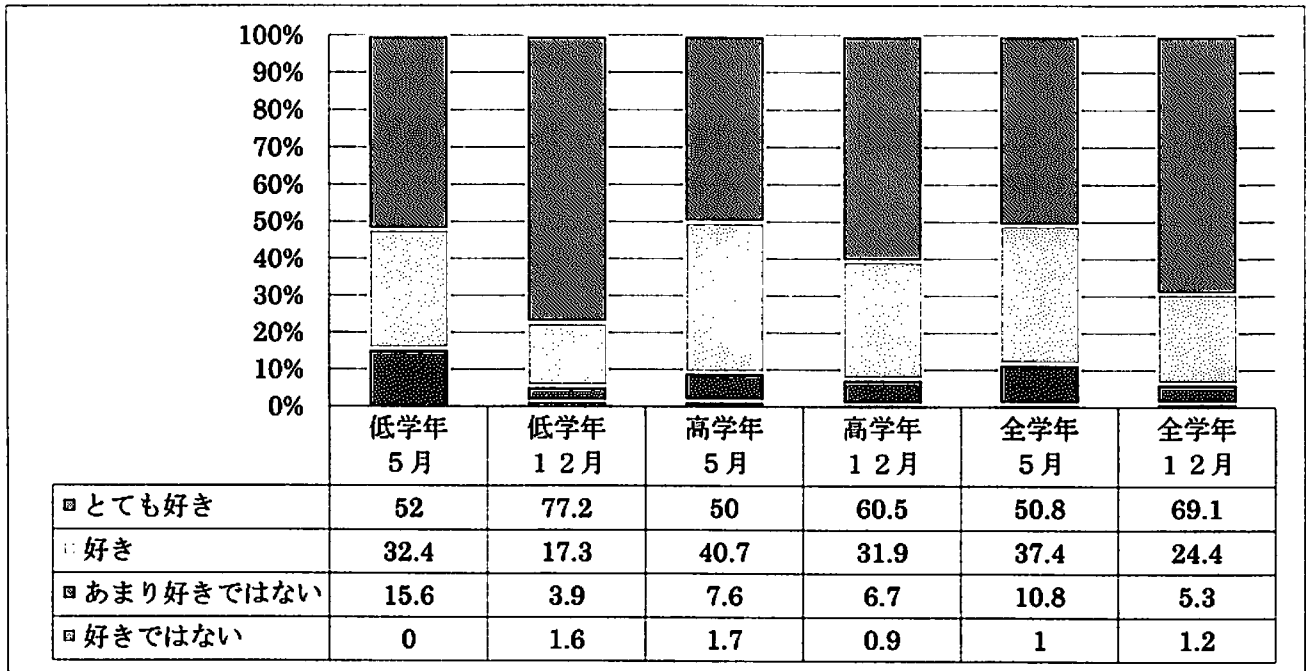
質問6 友達の作品のよいところを見つけ、相手に伝えることができていますか。

- ア いつも伝えられる                      イ 伝えられることが多い  
ウ 伝えられないことが多い              エ 伝えられない

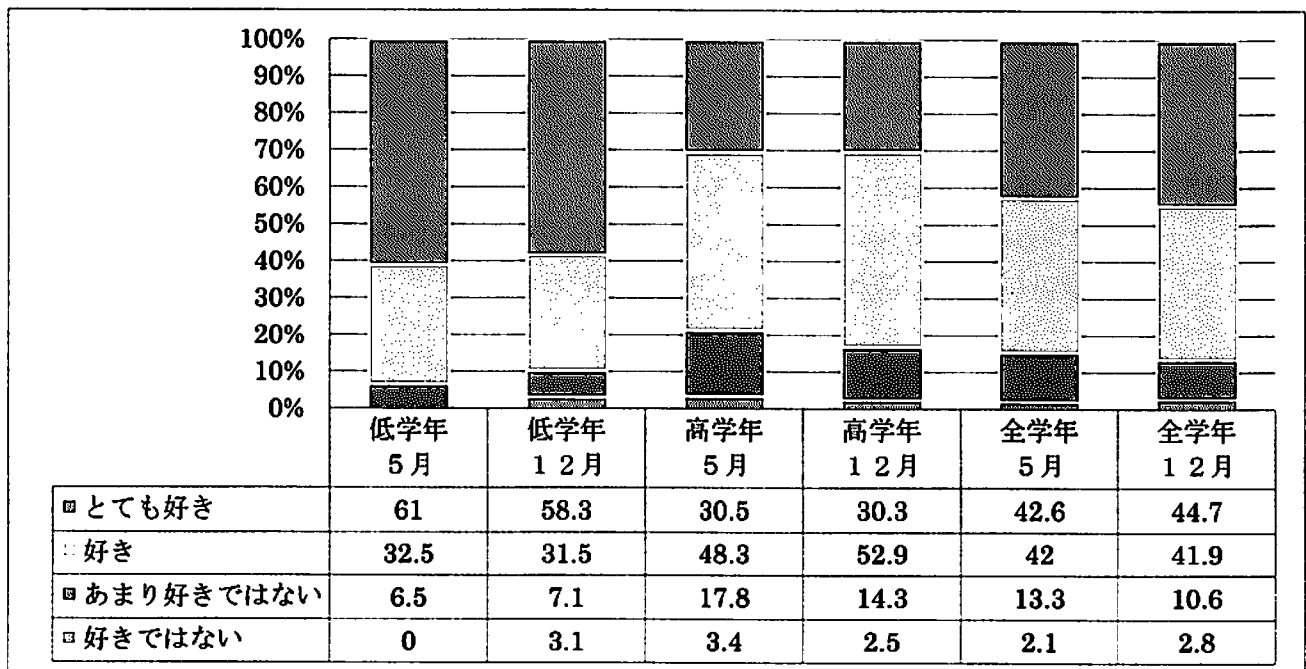
## 2 児童の変容

グラフは調査の結果を百分率で表している。

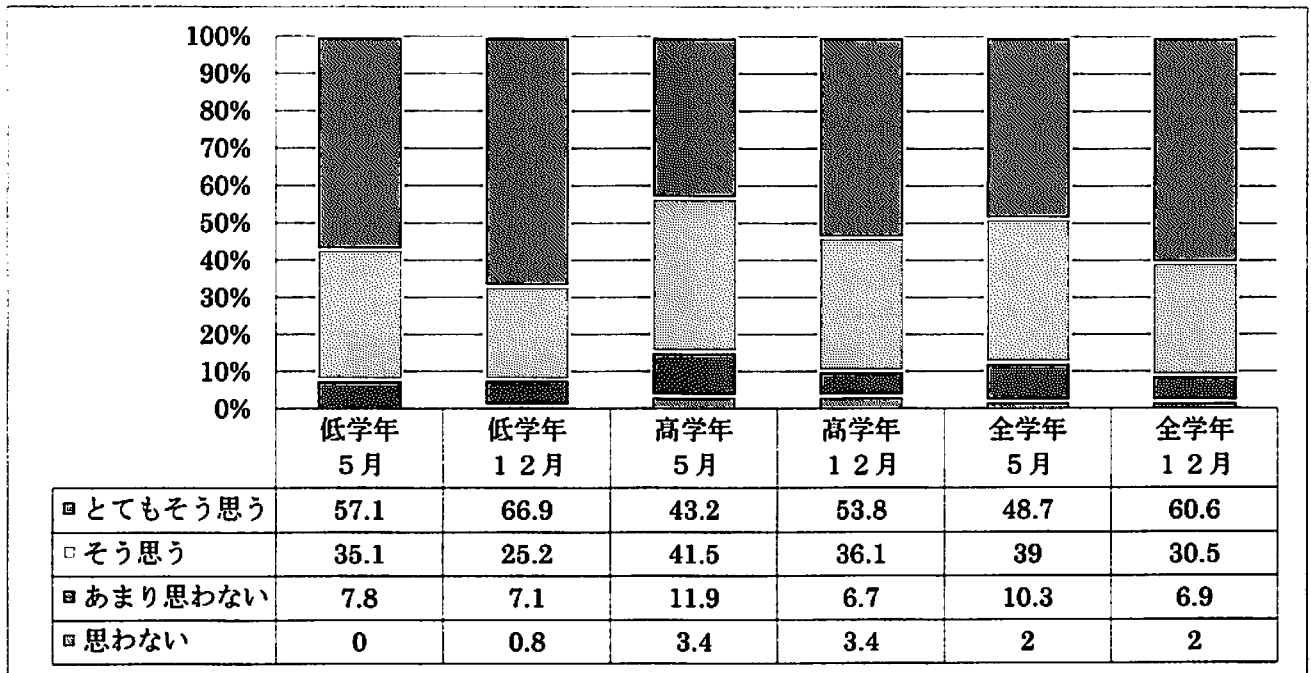
質問1：何をつくるか想像したり，つくり方を考えたりするのは好きですか。



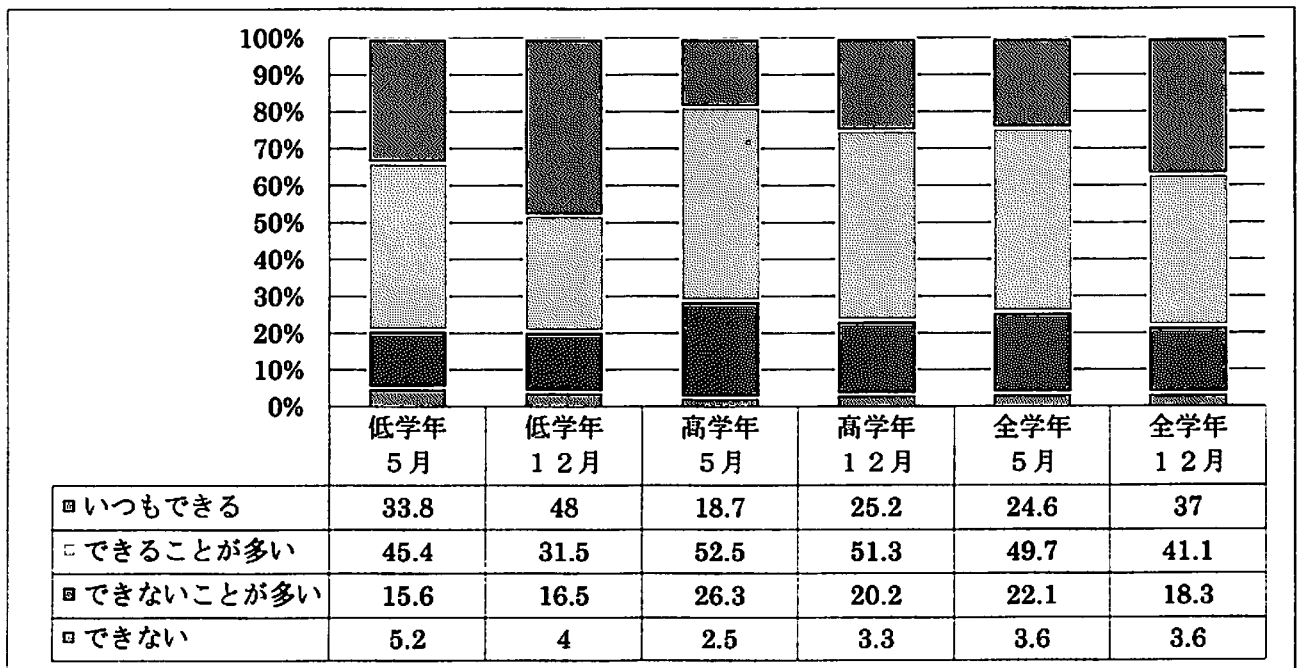
質問2：自分のつくった作品は好きですか。



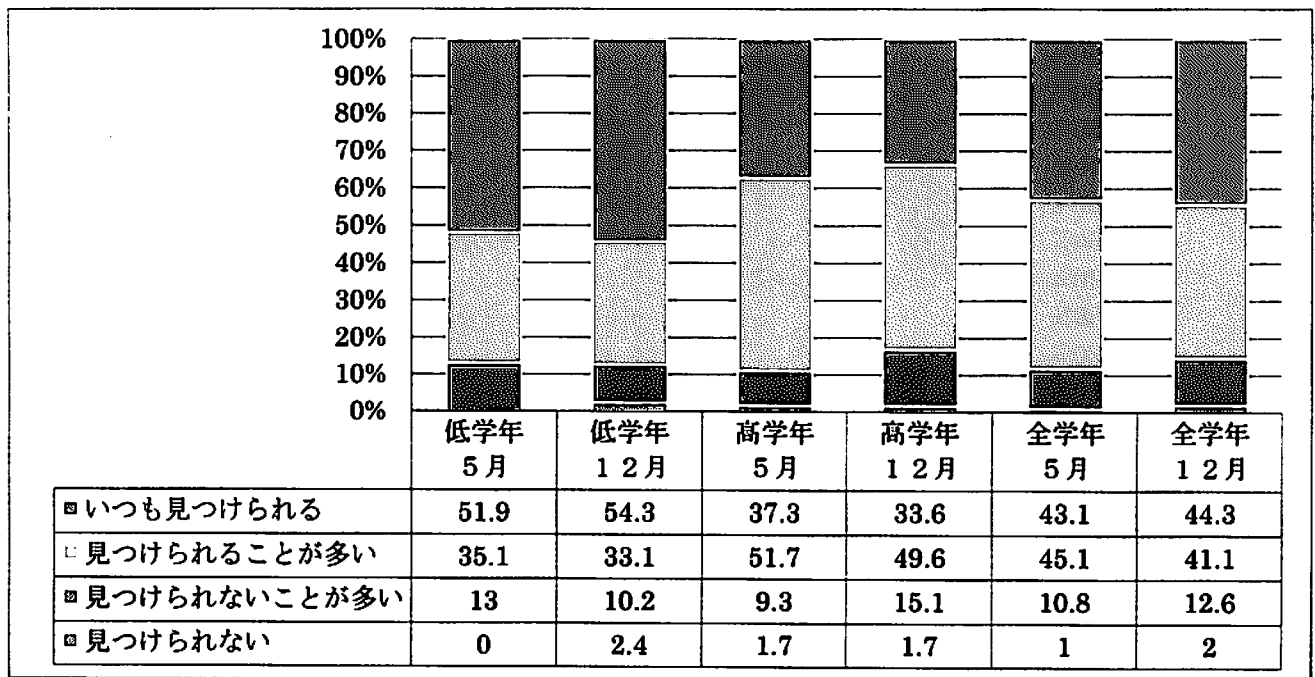
質問3：自分のアイデアを作品にしたいと思いませんか。



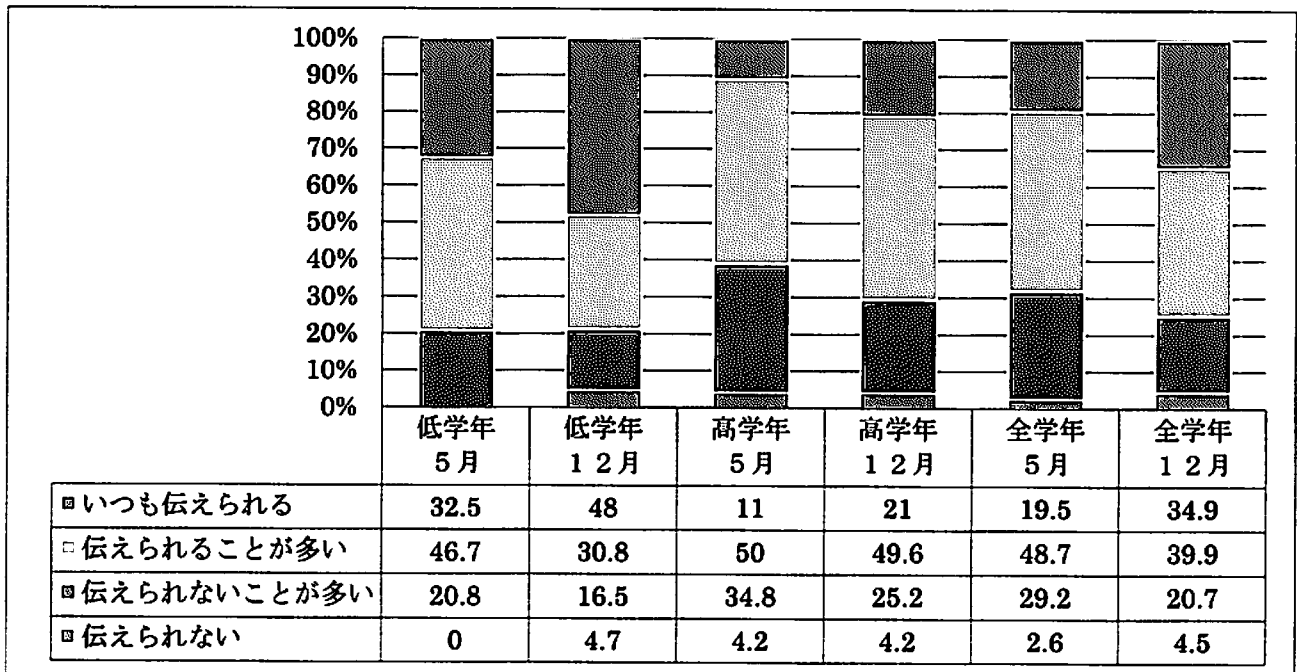
質問4：自分のアイデアを作品にすることができていますか。



質問5：友達の作品のよいところを見つけていますか。



質問6：友達の作品のよいところを見つけ、相手に伝えることができますか。





### 3 考察

- 質問1「何をつくるか想像したり，つくり方を考えたりするのは好きですか。」について，全学年でアやイと回答した児童数の割合は微増し9割を超えた。特にアと回答する児童数が18.3ポイント増加した。理由として，単元の導入場面において教師が作った見本を提示したことが挙げられる。それを見ることにより，漠然とした状況から方向性を見つけることができるようになった。また，作品例を参考にしなくても，自分で発想を広げていくことができるようになっていた児童も増加している。昨年度からの研究の成果がでていることが授業の様子からうかがえる。
- 質問2「自分のつくった作品は好きですか。」について，低学年でアやイと回答した児童数の割合は微減したが，高学年では12.3ポイント増加した。低学年で微減した原因として，教師による作品例に近づくようにつくっても，できなかったことや，高い技術が必要な作品を思いついたが実現できなかった等が考えられる。発達段階を踏まえれば，こうした状況になりやすい。全部は実現できなくても部分的に実現できたことに対して称賛する等，教師の適切な助言が改善の手立てとなる。一方，高学年においては作品をつくるための様々な技能が向上し，自分で新たな表現方法を考え出したり，友達のアイディアをアレンジしたりすることができたことがその要因となっている。
- 質問3「自分のアイディアを作品にしたいと思いますか。」について，全学年でアと回答した児童数の割合が11.9ポイント増加した。その要因として質問1と同じく，教師の作品例等を見て，視覚的にヒントを得られたことが挙げられる。また，2年間の研究により，普段の授業からどんな工夫をするか高い意識をもって授業展開するようになった教師の意識の変化も要因の一つであると思われる。
- 質問4「自分のアイディアを作品にすることができていますか。」について，全学年でアと回答した児童数の割合が12.4ポイント増加した。質問3から明らかになった「自分のアイディアを作品にしたい」という思いを実現できている児童数の割合が高いということがわかった。作品づくりの計画を立てる段階で自信をもっていなければこのような数値には至らない。児童一人一人が自分のアイディアに対して自信をもっていること，それを実現するための技能が向上していることが明らかになった。
- 質問5「友達の仕事のよいところを見つけていますか。」について，全学年でアやイと回答した児童数の割合は約9割，年間を通して高い数値となっている。この理由として，活動の途中で鑑賞の時間を設けたことに加え，学習の最後にも充実した鑑賞活動を行ったことが挙げられる。さらに内容を深めるために，具体的な鑑賞の視点を明確に提示する等の工夫が考えられる。視点を絞りすぎてしまうことに陥ってはならないが，よさを見つける手がかりを示したいところである。
- 質問6「友達の仕事のよいところを見つけ，相手に伝えることができているか」について，アと回答した児童数の割合が14.9ポイント増加した。質問5と関連して，児童にとってよさを見つけることは比較的容易な活動であるが，それを相手に伝えるとなると，そこに一つの壁が存在する。壁と感ずるような「相手に伝える」という活動についてアと回答した児童数が増加したことは，本研究の成果である。成果につながった例を挙げると，「友達の仕事のよさをまねる」ことを肯定的に捉えさせたことである。まねはよくないと思われがちな意識を，教師の助言で変化をもたらすことにより，「まねをする＝あなたのよさ」と相手に伝える機会となったのである。

## 図工の学習について

図工の学習で楽しいと思っていることや、がんばっていることなどを自由に書いてください。  
(工作・絵・鑑賞・グループの活動など)

先生が今回はこんなことをやると言うので、アイデアがたくさん出るので色々な作品や糸会が作れたりかけたりして楽しんでいます。グループで活動するとまた自分とは違うアイデアが出てきておもしろいです。かん賞では同じ場所ややり方でも一人一人が違って、こんなふうになったりするので楽しいです。糸会は小さいコマかいてところまでかいたりするときには細いものをできるだけ使ったり、するとかき糸が切れたときにまた糸が切れたと思って、気が散るくらい楽しいです。まただいたんに大きくかくとスッキリしたりそっかい感がありこれもまた気持ちがいいのでおもしろいです。色づかいもちゅうせいなどをしてかいています。



## 図工の学習について

図工の学習で楽しいと思っていることや、がんばっていることなどを自由に書いてください。  
(工作・絵・鑑賞・グループの活動など)

図工は、作品を作った後に鑑賞するのがとても楽しいです。友達がどんな事か思い、作品を作ったのか考えたりするのがとてもおもしろいと思います。また、よかつ友達の作品を発表してみんなに見せることにより、次の自分の良い作品作りにもつながるのいいと思います。

図工は、グループやペアでやるとより楽しいと思います。相手の意見と自分の意見を組み合わせると、またさらに良い作品になると思います。

私は、図工で自分のアイデアや工夫を入れつつも色あざやかにするのが、いつも目標として行っています。

工作や絵も他の人は少しちがうような、おもしろい、新しい作品を作ろうと行っています。そういうのを考えたりするのがとても楽しいので、私は図工が大好きです。



## 図工の学習について

図工の学習で楽しいと思っていることや、がんばっていることなどを自由に書いてください。  
(工作・絵・鑑賞・グループの活動など)

私は図工の学習の中で絵を描くこととグループ活動が特に好きなので絵を描く学習では、こまかいところをいろいろに描いたり、絵の具の色をぬるときに筆の使い方にいろいろしたりするのが好きです。また、上手に描けるととてもうれしいのでとても楽しく絵を描きます。グループ活動では、自分の意見をまとめたり、友達のことをよく聞いて、自分の意見をより深められることを目標にして作品を作ったり、描いたりできるようにしたいし、グループのみんなと意見を言い合ったり、アドバイスをしたり、してもらったりするのが楽しいのでまたやりたいです。でも、自由に作る作品などに題名をつけたりするのは少しは難しいのでそこをがんばりたいです。



## 図工の学習について

図工の学習で楽しいと思っていることや、がんばっていることなどを自由に書いてください。  
(工作・絵・鑑賞・グループの活動など)

工作...どんな作品にするか考えるのをとくにかんばっています。  
絵...水でうすめて、色のこさをちょうどいするのが楽しくて、たまにうまくいかなるときがあるけど、それが自分の作品なんだと思います。  
鑑賞...友達や自分の作品のよいところを見つけるのが上手になるようにがんばります。  
グループの活動など...グループではチームワークの仲を深められるように、たくさん意見を出し合って、ミテ、みんなのときのように、みんなでどんな作品なのかを考えるのも、生かしたいです。



## 図工の学習について

図工の学習で楽しいと思っていることや、がんばっていることなどを自由に書いてください。  
(工作・絵・鑑賞・グループの活動など)

図工の学習では一番がんばっていることは、工作と絵です。なぜなら、工作は作るのも楽しいし、自分の思った物を作ったり、まずかしい物もどんどんチャレンジして作ったりすることができると、楽しいし、がんばっています。次は絵で、絵画は特にしゃが好きて、遠近法など、立体的に絵をかくのが好きて、その自分の気に入った絵を、写して書くというのが、すごくおもしろく、リアルにかけた時すごく達成感があるから、がんばることから、工作も絵も、まずかしいものを作ったり、作ったりすることができると、



## 図工の学習について

図工の学習で楽しいと思っていることや、がんばっていることなどを自由に書いてください。  
(工作・絵・鑑賞・グループの活動など)

工作は、自分の考え、イメージなど、考えたいで、どんなものでもつくれる。町にある、くえも、家も、一つ一つが工作の作品で、とても...と思ってる。空の、工作の時間は、とても楽しいが、さいりょうの数を気にせず自由に作りたいなあ、とか、もっといいものを作りたいと思ふことがある。

絵画は、自由にできるもの、立体の表現などの高いものは、ないので、うまくできないから、とても苦手で、

鑑賞はグループで話しあえる時以外は、あまりおもしろくない。自分の考えを、皆に伝えた。

グループ活動は、絵以外なら、なんでも楽しい、皆でやるから、その出てくるイメージやアイデアから、...ところを、グループで協力してやる活動は、とても楽しい、逆にそれができないと、とてもつまらない。



印旛教育研究集会提案資料 図工・美術分科会

印旛郡図工・美術研究部テーマ

「きらめく感性 ときめく思い うみだせアート」  
～子どもたちの 心をゆさぶり 思いを広げる 造形活動を目指して～

「生徒が自分の思いを表すために、楽しんで取り組む制作活動をととして」



四街道市立四街道中学校 高田 徳浩

## 1 研究主題

『生徒が自分の思いを表すために、楽しんで取り組む制作活動をととして』

## 2 主題設定の理由

生徒が自分の思いを表すことは難しさを伴うこともある。学力的には高いものを持っているが、美術の作品制作の場合、課題によってはなかなか考えを形にすることができなかつたり、考えることを面倒だと感じて参考作品を安易に真似る者も少なくない。もちろん真似ることは悪いことではない。真似ている途中で自分の発想、ひらめきによって作品にアレンジが加えられていけばよいのだが、なかなかそういう展開にならない生徒もいる。

作品制作は、自分の頭の中のイメージを具体的な形にするために下描きをする。頭の中のイメージを整理するための作業だから、細部にはこだわらず、大まかに形をとらえたり、場合によっては簡単に彩色することもある。本描きとなると構えてしまいがちだが、もっと気軽な気持ちで描き始めて加筆・修正を加えていければ面白い画面構成ができるのではないかと考える。本題材では、自分の空想の世界を言葉で表現するワークシートに書き出すことでイメージをある程度わかりやすく具体的にし、構成画の練習用として具体的な条件付きのワークシートで画面構成を考えさせた。

「楽しんで取り組む制作活動」とは、普通に絵を描く場合、現実的な設定（ものの大きさ、立体感や遠近感、固有色など）に縛られることがあるが、空想画は逆に現実的な条件を壊すことで生まれてくると考える。当たり前とと思っている常識的なことを絵の中で壊す面白さが味わえる。現実にはできないことを頭の中で考え、自分で設定する面白さを味わうことで、自分の作品のイメージを広げながら自分の特長を出していけるように空想画の課題を設定した。

## 3 研究仮説について

仮説1 生徒が「どういう世界を作りたいのか」「どんな思いを伝えたいのか」構想の段階で明確にし、見通しを持たせれば楽しんで制作することができるだろう。

《手立て》

- ・導入で、作品鑑賞をし、空想画についてイメージを持たせる。
- ・どんなイメージの世界を表したいのか、言葉でワークシートに記入させる。
- ・固定概念をなくすために画面構成の練習をさせる。
- ・相互鑑賞の場を設ける。

仮説2 モダンテクニックなど様々な表現を体験することで、イメージを広げ自分の思いを作品に活かすことができるだろう。

《手立て》

- ・仕上がりのイメージから描画材料を選択して、単独または併用して制作させる。
- ・いろいろなモダンテクニックの素材や道具を準備することにより作品にすぐに活かせるようにする。

#### 4 授業実践

##### 第3学年6組 美術科学習指導案

指導者 高田 徳浩  
展開場所 美術室

#### 1 題材名 「ちょっと不思議な空想の世界に入ってみよう」

#### 2 題材について

##### (1) 題材観

本題材は、中学校学習指導要領美術科の以下の内容を受けて設定したものである。

##### 「A表現」

(1) 絵や彫刻などに表す活動」として取り上げ、指導内容としては、

(ア) 対象を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情など心の世界などを基に主題を生み出すこと」

(イ) 主題などを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、構成の仕方、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練ること」

##### [共通事項]

(イ) 「形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること」

空想画は、現実にはあり得ないものの組み合わせや常識的な大きさ、色、質感を変化させたり、物語や詩など言葉からイメージされる情景を画面構成のヒントにしたり、日常ではできないことをできるように表現することによって、自分の心の中の思いを素直に表現する題材である。

この学年は、1年生の時に、モダンテクニックを使って、スパッタリング、マーブリング、フロッタージュなどを体験し、偶然できた形や色からイメージを広げていく方法を学んだ。2年生では、一点透視・二点透視図法を使って立体感や奥行きのある形や風景を描く学習をした後、抽象形を使って、立体感や奥行きを表す平面構成を制作した。平面構成では、画面構成をどのようにするか、なかなか決められない者が多く、参考作品に似た構成になる作品が多いように感じた。空想画は、これまでに学習したモダンテクニックを使ってイメージを広げ、さらに透視図法で奥行きのある不思議な空間を演出することもできる。1・2年で学んだことを基に、発想や構想をする力を養うには適切であると考え、この題材を設定した。

##### (2) 生徒の実態 (男子 19名, 女子 16名, 合計 35名)

美術の授業においては、制作に前向きに取り組む生徒が多いが、おしゃべりにけじめがつかなくなって注意される場面が多いときもある。今回授業展開する3年6組で、以下の内容でアンケートを実施した。アンケートの結果からは、アイデアを考えることは面白いと感じている者とそうでない者は半々ぐらいである。想像して描くよりは、実際に物を見て描く方が好きと答えている者が若干多い。しかし、空想画については興味のある者は7割を超えている。

事前アンケート調査 (実施人数 33 名)

- |   |                                                                 |      |      |
|---|-----------------------------------------------------------------|------|------|
| 1 | 美術の作品を制作するときにアイデアを考えることをどう感じますか。                                |      |      |
|   | ア, 楽しい, 面白い                                                     | 16 人 | 49 % |
|   | イ, 難しい, 苦手                                                      | 14 人 | 42 % |
|   | ウ, どちらでもない                                                      | 3 人  | 9 %  |
| 2 | 絵画で, ものを見て描く場合と想像して描くときでは, どちらが楽しいですか。                          |      |      |
|   | ア, ものを観察して描く                                                    | 16 人 | 49 % |
|   | イ, 想像して描く                                                       | 13 人 | 39 % |
|   | ウ, どちらでもない                                                      | 4 人  | 12 % |
| 3 | 空想画でどのような世界を表したいですか (どうしてそう思いましたか)                              |      |      |
|   | ・現実とはかけ離れた世界 (自由だから, 自分だけの世界だから 自分らしさが出る<br>そういう世界が好きで行ってみたいから) |      |      |
|   | ・みんなが見たことのない世界 (面白そうだから)                                        |      |      |
|   | ・カオス (世界で一つだけの絵にしたいと思ったから)                                      |      |      |
|   | ・自分の部屋にいろいろな世界が広がっている様子 (あったら面白いから)                             |      |      |
|   | ・現実にはありそうでありえない世界 (現実に少しひねりを加えたぐらいが丁度良いと思<br>うから)               |      |      |
|   | ・もし海の中に動植物が住めて自然と都会が共存できたら, という世界 (地上でも海で<br>も暮らせたなら楽しそうだから)    |      |      |
|   | ・普通とは逆の世界 (逆で見ると別のものになるから)                                      |      |      |
|   | ・だんだんと色が変わってゆく様子, 水の流れが感じられる絵 (神秘的な絵にしたいか<br>ら)                 |      |      |
| 4 | 現実にはありえない夢の世界を描いたような不思議な絵に興味はありますか。                             |      |      |
|   | ア, ある                                                           | 26 人 | 78 % |
|   | イ, ない                                                           | 7 人  | 22 % |

(3) 指導観

本校の今年度の研究主題は、「健全な自己肯定感を養い、「生きる力」をはぐくむ教育活動の工夫—9年間の学びの連続性をふまえて—」である。様々な構成ができるなかで、自他の作品の良さを感じ、認め合う活動につなげていきたい。小学校においては、「言葉やお話から想像したり、発想したりする絵画題材」、言葉や文章から受けたイメージを広げて自分の思いを形や色で表す課題をやってきている。モダンテクニックもフロッタージュ (こすり出し)、スパッタリング (霧吹き) やドロッピング (たらし込み) などいくつかを経験している。中学校では、構成や素材、技法の併用などを工夫し表現の場を広げていきたい。

教科の努力点は、「生徒が主体的に考え、制作活動に取り組む授業の工夫」である。各自が自分の表現したいものに合った描画材料や表現方法を選択し、単独または併用して制作することにより、表現の幅を持たせ、イメージが具現化していく楽しさを味わわせたい。そこで、制作の構想段階において、自分の思いや作りたい作品の世界観(イメージ)を言葉で表してみたり、アイデアスケッチを友人同士でアドバイスし合う相互鑑賞を行う中で、アイデアが浮かばない生徒の参考となるよう配慮したい。

本題材は自由に自分でいろいろな設定をすることができる面白さがあるが、様々な画面構成を考えることは自由すぎて難しいと考える。画面構成をしやすいようにワークシートを活用しながら進めていきたい。生徒の中には本題材に興味があり、表現したいイメージをもっている者が多くいる。イメージが広がり、テーマが深まっている生徒の作品や発想の過程を共有することで、



イメージがなかなか浮かばない生徒や、発想することに苦手意識のある生徒にも、空想画を魅力的に感じ、自由に発想し表現できるように支援していきたい。

そこで、以下のような手立てをとりながら進めていくこととする。

①導入で、作品鑑賞をし、空想画についてイメージを持つ。

制作の流れや自分のイメージを持たせるため、教科書の生徒作品や空想画の代表的な画家の作品を鑑賞し、発想の仕方についていくつかある方法を理解する。発想の方法を知ることによって自分のイメージをつかみやすくする。

②どんなイメージの世界を表したいのか、言葉でワークシートに記入する。

「自分が考えた空想の世界はどのような思いを表しているか、どうしてこのような構成にしたのか」「明るい世界か、暗い世界か」「色彩は暖かいか、冷たいか」とポイントを絞って文章で書くことで、イメージを明確にし、制作を進めやすくする。

③固定概念をなくすために画面構成の練習をする。

常識的なものの大きさ、質感、異質なものの組み合わせなどを画面構成のワークシートに練習してみることでイメージを形として表出しやすくする。また、プリントで考えた構成を本描きで使っても良いし、別なイメージで表しても良いこととする。

④相互鑑賞の場を設ける。

制作の構想の段階で、グループによる相互鑑賞を行い、お互いの作品を見て、意見・感想・アドバイスする場を設けることで、他者からの視点を作品に反映できるようにする。

⑤仕上りのイメージから描画材料を選択して、単独または併用して制作する。

それぞれの描画材料の持つ持ち味を考えて使用することで、最初に考えた自分のイメージ(暖かい、優しい、力強い、鋭い、重厚な、等)画面に定着しやすくなると考える。

⑥モダンテクニックなどの様々な表現技法を用いて制作する。

いろいろな種類の技法を組み合わせたりすることでイメージを広げ、自分の思いを作品に活かすことができると考える。

3 題材の目標

- ・空想画に興味をもち、発想や制作に前向きに取り組もうとする。(関心・意欲)
- ・自分の思いを形に表し、空想の世界として構成することができる。(発想・構想)
- ・自分の表現、テーマに合った素材を選択し、単独または併用して表現することができる。(技能)
- ・様々なイメージや表現方法の作品を鑑賞することで、それぞれのよさを味わい、自分の思いを作品に活かすことができる。(鑑賞)

4 指導計画 (12時間扱い 本時 8/12)

時配	主な学習活動	評価規準 [方法]
導入 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の「空想からの表現」を使って不思議な作品について話を聞く。</li> <li>・参考作品を鑑賞する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不思議な絵の世界について興味を持って、話を聞こうとしている。</li> <li>・参考作品に興味を持つ。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(関・意) [観察]</p>

<p>構想 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成画の練習プリントで、不思議な絵を構成する練習をする。</li> <li>・どんなイメージの世界を表したいのか、ワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく考えて組み合わせや背景を設定することができる。(発・構) [ワークシート]</li> <li>・組み合わせを工夫して描くことができる。(技) [作品]</li> <li>・自分のイメージを具体的に描くことができる。(発・構) [ワークシート]</li> </ul>
<p>制作 7</p> <p>本時 8/12</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成画のプリントのイメージや新たなイメージからアイディアスケッチを描く。</li> <li>・仕上がりのイメージから、描画材料を選択し、八つ切り画用紙に制作する。(鉛筆、ペン、色鉛筆、パステル、絵の具、コラージュ等)</li> <li>・相互鑑賞してお互いにアドバイスをする。</li> <li>・制作する中でイメージが広がった場合は、アイディア時点でのイメージにしばらくすぎないように、自由な発想で制作を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々工夫して構成することができる。(発・構) [下描き]</li> <li>・白黒による単色の表現(鉛筆、ペン)では、明暗の配分やグラデーションの密度をよく考えて進める。有彩色による表現では、主張色とアクセント色、色の混色や重色、描画材の併用による効果などを考えながら進める、など効果的に材料を使い、制作することができる。(技) [作品]</li> <li>・悩んでいるところやこうした方が良くなる点などをアドバイスしようとしている。(鑑賞) [ワークシート]</li> <li>・自分の作品について、しっかり表現することができる。(技) [作品]</li> </ul>
<p>鑑賞 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した作品を観て、自分が表したかった思いがどのように表現できたか、文章に表す。</li> <li>・全員が作品のテーマ、思いなどを発表する。</li> <li>・次時の内容について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明確に自分の思いを伝えることができる。人の話をしっかり聞くことができる。(関・意) [態度]</li> </ul>

5 本時の指導 (8/12)

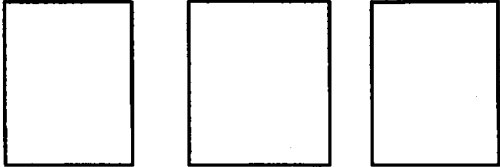
(1) 目標

- ・ 描画材料を効果的に使い、自分のイメージに合った表現方法を追求することができる。  
(技能) [作品]

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
10	<p>1 本時の学習目標や内容についてしっかり話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1, 2名が発表する。</li> <li>・ 自分が伝えたい心情を考え、主題を明確に伝えていくか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2, 3点の作品を取り上げ、感想やアドバイスを発表させる。</li> <li>・ 足りない部分を教師が補足する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参考作品, 写真資料, 図鑑等</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>「イメージに合った表現になっているか見直そう」 (構成や形, 調子や色彩を調整することができる)</p> </div>		
30	<p>2 構成や形, 調子や色彩をどのようにしていくか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の制作に必要な画材を考えて制作する。</li> <li>・ グラデーションが上手く出せない。</li> <li>・ 色鉛筆のタッチが強すぎる。色味が単調である。</li> <li>・ パステルの粉が浮いている。色が薄い。</li> <li>・ 植物の緑や道の茶色が生である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉛筆で描いている生徒は線の重ねやグラデーションの幅を確認する。</li> <li>・ 鉛筆やペンを使っている作品は、ハッチングの重ね方による濃淡の表し方について助言する。</li> <li>・ 濃い調子から中間の調子に変化をつける。</li> <li>・ 色鉛筆を使っている作品は色の濃さが適当であるか、色を重ねているか確認して必要があれば助言する。</li> <li>・ パステルの作品は色の重ねやぼかしの効果を助言する。</li> <li>・ 混色や重色, 上から色をおさえる。</li> <li>・ アクリル絵の具の作品は配色について助言する。</li> </ul> <p>○表現に適した効果的な材料の選択や、イメージに合った表現をすることができる。 (技能) [作品]</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉛筆, 練り消しゴム, 色鉛筆, パステル, アクリル絵の具, 歯ブラシ, 金網はさみ, のり, コラージュ用資料等</li> </ul>
10	<p>3 使用した道具を片付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時について振り返る。</li> <li>・ 次時の授業について話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 後始末の様子を確認する。</li> <li>・ 作品がイメージに近づいたかを振り返る。</li> </ul>	

## 板書計画

<b>学習課題</b>	イメージに合った表現になっているか、見直そう。
<b>見直すポイント</b>	<b>参考作品</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・構成</li><li>・形</li><li>・調子</li><li>・色彩</li></ul>	

### 5 成果と課題

#### 仮説1について

##### 《成果》

- ・画家の絵や生徒のいろいろな作品を鑑賞することでイメージを広げるためのきっかけになったと思う。
- ・発想のためのいろいろな方法を知ること、自分なりのやり方で進めることができた。
- ・ワークシートに「どのような思いを表したくてこのような表現にしたのか」という内容で書かせることで、自分が表したいイメージを具体的につかむことができた。
- ・画面構成のワークシートに描くことで、大体の生徒は本画への制作をスムーズに進めていた。
- ・相互鑑賞によって自他の作品の良さや改善点を知ること、その後の制作がしやすくなった。

##### 《課題》

- ・言葉で書くことが苦手な生徒には、面倒と感じる者もいた。
- ・逆にワークシートへの記入に時間がかかって作品制作への取りかかりが遅い生徒がいた。ワークシートや下絵の完成の目安となる時間や期日を口頭で伝えてはいたが、遅れてしまう生徒が出てしまった。

#### 仮説2について

##### 《成果》

- ・素材の持ち味を色々と試しながらそれぞれに工夫して制作する様子が見られた。
- ・制作を進める中でいろいろな技法を取り入れることで画面の雰囲気に変化が出て以前より単調さがなくなった。

##### 《課題》

- ・自分が得意な素材だけではなく、周りの人がよく選ぶ素材や扱いが簡単な素材を選ぶ様子が見られた。
- ・いろいろな描画素材や技法に加えて、画用紙の種類も選択させることでイメージの広がりや思いを表すことにつながると思われる。

## 《生徒の感想》

### 【空想画について】

- ・自由に設定できるのは、面白いと思ったが、やってみると結構難しいことがわかった。
- ・イメージを色々な方法で表すことができるので、色々試しながら進めることができた。
- ・風景だけでなく自分を入れることによって叶えることが難しい夢でも身近な夢のように描くことができて楽しかった。
- ・自分のこころのイメージを考えたりすることが楽しかったです。
- ・見る人に自分が思っている感情を伝えられるか、考えるのが難しかったです。
- ・何を表すか、どういう風に表すか、どう描くかなど、いつもより頭を使ってあらゆる視点から作品に向き合えました。

### 【材料などを選ぶことについて】

- ・いろいろな色を使ってみたり、やってみたりすることができて良かったです。初めてすることに発見したりすることなど、次から絵を描くときに、どのものを使えばこうなるなど発見できた授業の時間が楽しかったです。
- ・叶えることが難しい夢なので、色鉛筆で夢の実現の難しさを表すために薄めに塗りました。もし絵の具だったら相手への伝わり方も違っていたと思うので、表したい色と濃さで材料を選択できて良かった。
- ・これっていうのが見つかるまで色鉛筆を試してみたりして探検できました。次にこういう機会があったらちゃんと工夫して色を使ってみたいです。
- ・私は絵の具と鉛筆と色鉛筆を使ったのだけれど、一つの種類だったらあまりうまくいかず適当になってしまったと思うので複数使うことができて良かったです。また、自分の表現したいのはどんなことか、どんな道具が合うのかなど、考えて使うことができたので勉強にもなったと思います。
- ・色を付けるのか、白黒で表すか、を自由に決められて、それだけで絵の印象は変わるし、色を付けるのが苦手という場合でも白黒で表せるから良いと思った。

あなたの思い描くイメージは？

あなたは、心の中にある空想の世界をどんなイメージに仕上げたいですか。言葉で表現してみましょう。

1 あなたが考えた空想の世界は、あなたのどのような思いを表しているのでしょうか。どうしてこのような画面構成にしたのか、文章で書いてください。

今の世界は、「平和を願う人が増えているが  
「平和な世界にしたい」とか言ってる時点で平和には  
ないよ心の底ではねえ。平和ってなに。世界が  
なくなったら人はどうするの。  
Aが希望をたし、人が平和をたのむ。そうすれば。

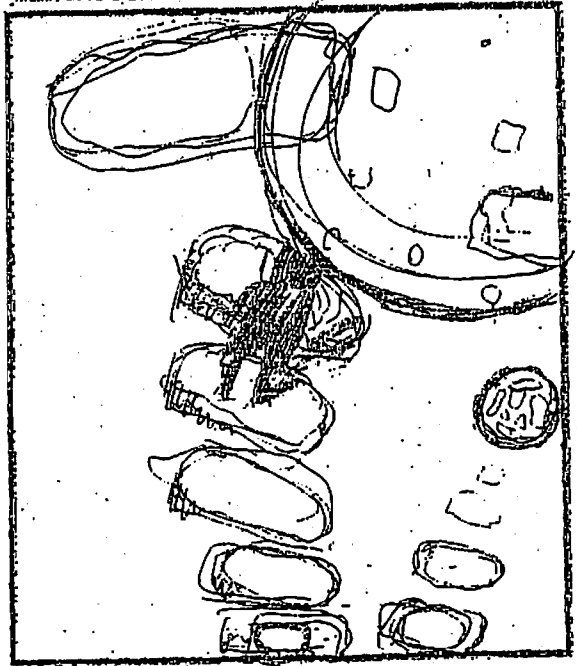
2 あなたの思い描く世界のイメージは明るいですか、それとも暗い  
か。  
暗い

3 色で表すと暖色系（赤色系）の色が多いですか、寒色系（青色系）の  
色が多いですか。  
寒色系が多い

Aさん

もし・・・だったらの世界を考えてみよう

常識を破って不思議な世界を創造してみよう（もしふつう固いもの  
が柔らかかったら、もし柔らかいものが固かったら、もしふつう空に  
いないものが空を飛んでいたら、もし空にいないものが泳いでいたら、  
常識的な大きさを覚えたり、いろいろ試してみよう。紙・横自由）



1111

あなたの思い描くイメージは？

あなたは、心の中にある空想の世界をどんなイメージに仕上げたいですか。言葉で表現してみましょう。

1 あなたが考えた空想の世界は、あなたのどのような思いを表しているの  
でしょうか。どうしてこのような画面構成にしたのか、文章で書いてくだ  
さい。

自由な心の中にある感情を表しました。  
「心」=「海」にたとえ、色とりどりの魚はそれぞれ  
違う気持ちで表されています。  
少女が落ちてくるとは、長くいれぬいけどな  
てはけりた水と心に響いて考え、自分の中に  
向き合う感じを表しました。

2 あなたの思い描く世界のイメージは明るいですか、それとも暗い  
ですか。  
明るい

3 色で表すと暖色系（赤色系）の色が多いですか、寒色系（青色系）の  
色が多いですか。  
寒色系

Bさん

もし・・・だったらの世界を考えてみよう

常識を破って不思議な世界を創造してみよう（もしふつう固いもの  
が柔らかかったら、もし柔らかいものが固かったら、もしふつう空に  
いないものが空を飛んでいたら、もし空にいないものが泳いでいたら、  
常識的な大きさを覚えたり、いろいろ試してみよう。紙・横自由）



あなたの思い描くイメージは？

あなたは、心の中にある空想の世界をどんなイメージに仕上げたいですか。言葉で表現してみましょう。

1 あなたが考えた空想の世界は、あなたのどのような思いを表しているのでしょうか。どうしてこのような画面構成にしたのか、文章で書いてください。

楽しく草な気がするがめんどろがそれが失われようなあり、不安が湧いてくる。(悲しみ)  
また、自分もさげすんでないけどさげすんでない、予備の気がするを表現している。  
自分でもわからないぐらぐらな思いが表れている、何かがとわいてない予備感にした。

2 あなたの思い描く世界のイメージは明るいですか、それとも暗いですか。

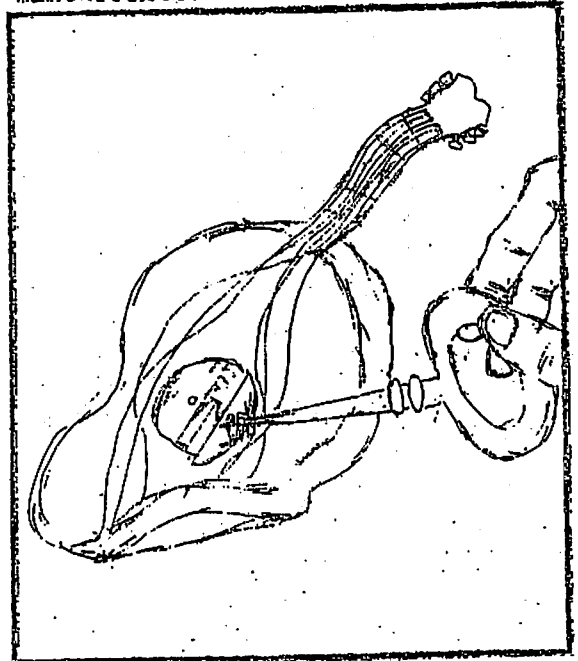
どちらもあやもっている。

3 色で暖すと冷色系(緑色系)の色が多いですか、寒色系(青色系)の色が多いですか。

2のイメージなのでどちらも印象がある。

もし・・・だったらの世界を考えてみよう

常識を破って不思議な世界を創造してみよう(もしふつう固いものが柔らかかったら、もし柔らかいものが固かったら、もしふつう空にいないものが空を飛んでいたら、もし空にいないものが泳いでいたら、常識的な大きさを覚えたり、いろいろ試してみよう。確・慎自由)



Cさん

あなたの思い描くイメージは？

あなたは、心の中にある空想の世界をどんなイメージに仕上げたいですか。言葉で表現してみましょう。

1 あなたが考えた空想の世界は、あなたのどのような思いを表しているのでしょうか。どうしてこのような画面構成にしたのか、文章で書いてください。

いぼらの道を進みながら、未来へ進んでいこう、という思いを表現しています。

道を「未来」、壁を「障壁」というもので表現しています。

2 あなたの思い描く世界のイメージは明るいですか、それとも暗いですか。

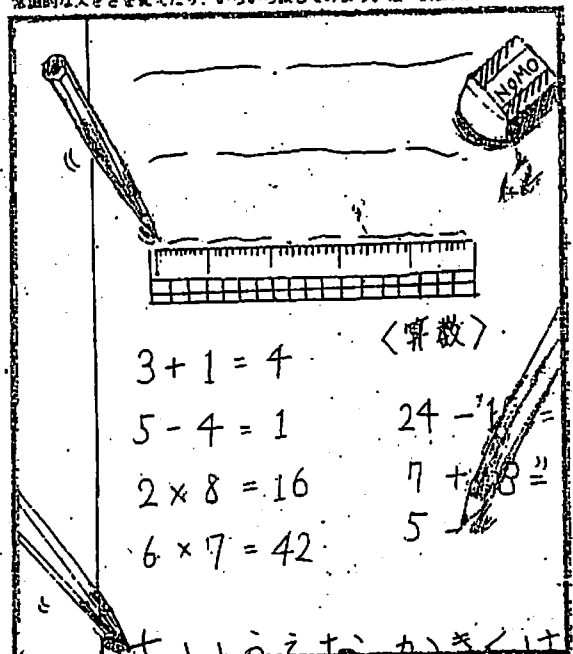
明るい

3 色で暖すと冷色系(緑色系)の色が多いですか、寒色系(青色系)の色が多いですか。

暖色系

もし・・・だったらの世界を考えてみよう

常識を破って不思議な世界を創造してみよう(もしふつう固いものが柔らかかったら、もし柔らかいものが固かったら、もしふつう空にいないものが空を飛んでいたら、もし空にいないものが泳いでいたら、常識的な大きさを覚えたり、いろいろ試してみよう。確・慎自由)



Dさん